

国民参加の森林づくりにより造成した 「ガールスカウト・丸和早生樹の森」における 早生樹植栽後3年間の成長

1. はじめに

早生樹は、スギやヒノキに比べて初期の樹高成長量や伐期までの材積成長量が大きな樹種で、コウヨウザン・センダン・チャンチン等の種類があります。コウヨウザンはスギやヒノキに比べて短期間で伐採し木材として利用することが期待されること、センダンやチャンチンは、材質が優良で家具材等としての利用も期待されることから、現在造林面積が増えてきています。林木育種センターでは、それら早生樹の特性評価のため、試験地を造成し調査を進めています。今回は林木育種情報 No.38 (2021) でご紹介した、「ガールスカウト・丸和早生樹の森」(関東森林管理局千葉森林管理事務所が国民参加の森林づくりの協定により造成)に植栽した苗木の成長状況についてご紹介します。

2. 設定後3成長期を経過した状況

「ガールスカウト・丸和早生樹の森」には、日本各地の林分を産地としたコウヨウザン、チャンチン、センダンの優良系統等から種子や穂木等を採取して苗木を育成し、植栽しました。なお植栽本数は、コウヨウザン3産地263本、チャンチン19系統127本、センダン7系統45本です。なお、対照としてスギ61本を植栽しています。

図1に、各樹種の平均樹高を示しました。植栽当初は一般造林用のスギに比べて小さな苗でしたが、2年次ではセンダンが、3年次ではコウヨウザンとチャンチンもスギの樹高を大きく超えました。3年次においては、最も成長の良い系統の平均樹高がコウヨウザンでは290cm、センダンでは480cm、チャンチンでは340cmで、スギの平均樹高の177cmを大きく上回る

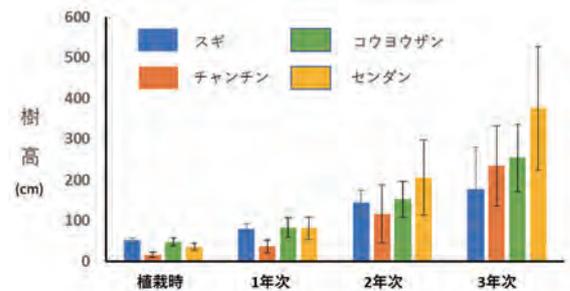


図1 「ガールスカウト・丸和早生樹の森」に植栽した各樹種の平均樹高の推移



図2 現地における各樹種の成長状況

左：コウヨウザン、中：チャンチン、右：センダン

優れた樹高成長を示してきています。

早生樹は、過去にも注目され、何度となく造林が試みられてきましたが、成功事例は多くありませんでした。この原因としては、立地条件によって成長が大きく変化する種類の早生樹を植栽したことや、植栽する苗木に係る知見が得られていなかったこと等が考えられます。そこで今後は、他の場所に設定した試験地の調査データとも併せて、各樹種・系統の成長特性や立地条件への適応性、材質等についても検証していきたいと考えています。

(遺伝資源部 保存評価課 倉本 哲嗣)